








# ■標準型のカリキュラム〈学習の内容・目標と評価の観点〉

第5学年

第5・6学年①

◎めあて

-  心を開いて友達のことを知り、材料体験をする
-  試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する
-  形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う

| 学期       | 時間                 | 指導要領   | めあてと重点活動  | 題材名            | 学習の内容  | 評価の観点   | 主な材料・用具  | 小・中一貫の視点  |
|----------|--------------------|--|---|----------------|--|---|--|---|
| 1学期・16時間 | 4～6時間<br>教科書8・9ページ | 表現(2)<br> 絵   |  身近な生活の中で春を感じたものをくふうしてかく | 季節を感じて         | <p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、自然の風景だけでなく、身近にあるものや生活の中での出来事などで季節を感じたものやことを見つけて絵に表す内容である。</p> <p>季節を感じるものは人物の服装や生き物、街や室内に飾られているものなど、さまざまにある。一人一人が感じたことを大切に、自分が見つけた対象の形や色の特徴を思いのままに表現する。</p> | <p><b>関:</b> 生活の中から表したいものやことを見つけて、表現することをたのしむ。</p> <p><b>発:</b> 主題が効果的に表せるように、視点やものの配置など、構成のおもしろさを考える。</p> <p><b>創:</b> 表したい感じがよく表れるように、絵の具や他の描画材料の扱いを工夫する。</p> <p><b>鑑:</b> 自他の感じ方のよさやおもしろさ、表し方の工夫を感じ取る。</p> <p><b>【共】</b> 身近な季節を感じたり、見つけたりすることを通して、形や色、奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したい絵のイメージをもつ。</p> | <p><b>教師:</b> 画用紙や色画用紙など（四つ切り、八つ切り）</p> <p><b>児童:</b> 水彩用具一式、クレヨン、パス、カラーペンなど</p> | <p>風景から発想する観察や経験にかかわる題材である。</p> <p>生活の中で感じた季節を、風景という主題の中に表すのであるが、単に見たままに再現しようとする写生画ではない。あくまでも自分が感じた心の中の季節を、形や色、構図を工夫して風景として表すのである。</p> <p>高学年の心の思い、自然の季節を感じる心を大切に、絵に表すようにしたい。</p>   |
|          | 2時間<br>教科書10・11ページ | 表現(2)<br> 立 |  自分の気持ちをねん土でくふうして表す      | ねん土に自分の気持ちをこめて | <p>☆試したり見つけたりしながら、造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、自分の願いやこだわりの気持ちなど、普段は感じていても造形としては意識することのない対象を、具象的な形で説明するだけではなく、抽象的な形で立体的に表してもよい。</p> <p>たとえば表すテーマが同じであっても、一人一人の表し方の違いや感じるままに表すことのよさを大切にする学習である。</p>         | <p><b>関:</b> 言葉で説明したり文章で表したりできないものを表すことに関心を高める。</p> <p><b>発:</b> 粘土を自由に操作しながらテーマを思いついたり、考えを広げたりする。</p> <p><b>創:</b> 手先や指先、体全体を十分に使い、粘土べらなどの用具も自分なりのイメージに従って工夫して使う。</p> <p><b>鑑:</b> 友達の表したいテーマや表し方の違いを聞いたり感じ取ったりする。</p> <p><b>【共】</b> 粘土の可塑性をたのしみながら操作し、形や動きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。</p>   | <p><b>教師:</b> 粘土（一人2～3kg）、粘土板、粘土べら</p> <p><b>児童:</b> タオルや布巾</p>                  | <p>心象的な内容を粘土で表すという高学年らしい課題をもった題材である。</p> <p>粘土がもつ可塑性のおもしろさは低・中学年で十分に味わってきているが、ここでは、その可塑性に自分なりの価値や意味づけをして表すことがねらいとなる。</p> <p>中学校では、心の世界を表したり、抽象的な世界をイメージして表したりする学習内容があり、そこにつながっていく。</p> <p>また、様々な技法を駆使した粘土の扱いは、中学校での塑像表現の幅を広げることになる。</p> |

|          |                        |             |  |             |   |   |   |  |
|----------|------------------------|-------------|--|-------------|---|---|---|--|
| 1学期・16時間 | 4～6時間<br>教科書 12・13 ページ | 表現 (2)<br>Ⅰ | <br>曲線切りした板を組み合わせながら、くふうして思いついたものをつくる | 糸のストラップ     | <p>☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。</p> <p>ここでは、板の曲線切りによって生まれた形から発想し、組み合わせで新たな形をつくり出す内容である。</p> <p>材料や用具の扱いについて、経験を通して技能を高め、自分の発想にもとづいた表現を工夫していく。</p> <p>形や色の構成、他の材料との組み合わせなど、試行錯誤しながら、自分の表現主題に近づけていく。</p> | <p>関：板の曲線切りをたのしむとともに、切った形を生かす活動に意欲的に取り組む。</p> <p>発：曲線切りによって生まれた形からつくりたいものの美しさを考え、自分らしい発想を広げる。</p> <p>創：形や色の組み合わせ、丈夫な接着など、表したい意図に関連づけながら技能を働かせてつくる。</p> <p>鑑：友達と自分の作品の特徴について話し合い、よさやおもしろさを認め合う。</p> <p>【共】 電動系のこぎりで切った形や色、材料の組み合わせなどを試しながら、それらがつくり出す形の特徴をとらえ、自分の表したいイメージをもつ。</p> | <p>教師：シナベニヤ等の板材、電動系のこぎり、紙やすり、接着剤、ポスターカラーかアクリル絵の具、必要に応じて木工用具</p> <p>児童：身近材料、水彩用具一式</p> | <p>木材を主材料とする工作題材である。</p> <p>中学年においては、手引きのこぎりで1枚の板を直線で切断することを習得してきたが、本題材では曲線切りを習得することをねらいとする。</p> <p>曲線切りの後は、切った板材に着色し、曲線の形や色を考えながら接着・構成するという高度な内容である。</p> <p>中学校においても、美術・技術科で電動系のこぎりを使うので、ここで十分に習得しておくことが望ましい。</p>                           |
|          | 2～4時間<br>教科書 14・15 ページ | 表現 (2)<br>Ⅱ | <br>ローラーのいろいろな技を生かして表す                | めざせ、ローラーの達人 | <p>☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。</p> <p>ここでは、低学年で経験したローラー遊びや中学年で経験した様々な絵の具遊びのことを思い起こし、ローラーやマスキングのできる高学年らしい新たな可能性を探りながら、美しい画面づくりを考えさせる内容である。</p>   | <p>関：ローラー遊びのたのしさを味わいながら、その可能性を探る。</p> <p>発：自分の感覚や知恵を働かせて、美しい画面づくりを工夫したり、できた画面から発想を広げたりする。</p> <p>創：経験したことに加え、新しい使い方を試したり、さらに発展的な表し方を見つけたりする。</p> <p>鑑：自分や友達のよさや違いを感じ取る。</p> <p>【共】 ローラーの特徴を生かしながら自分の感覚や活動を通して、形や色、動きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分のイメージをもつ。</p>                         | <p>教師：スポンジローラー、練り板、ポスターカラー、画用紙、マスキングテープ、スポンジ、ひも</p> <p>児童：水彩用具一式、はさみ、新聞紙</p>          | <p>コラージュによる表現の系列の題材である。低学年では、「はるはるおはながみのえ」、中学年では、「ようこそキラキラのせかいへ」「ふわふわさんのかざり」の経験がある。</p> <p>この題材は、色も触覚感も違うものを板や段ボール上にコラージュし、さらにその上から液体粘土を塗り固め、白い半立体的な画用紙状にしてから着色するという、技能的にも発想的にも高度な題材である。材料、技法ともに上級学年になるにしたがって抵抗感のある、課題解決型の要素が強い題材となっている。</p> |

| 学期       | 時間              | 指導要領       | めあてと重点活動  | 題材名         | 学習の内容  | 評価の観点   | 主な材料・用具  | 小・中一貫の視点  |
|----------|-----------------|------------|---|-------------|--|---|--|---|
| 1学期・16時間 | 2時間<br>教科書16ページ | 表現(1)<br>遊 |  集めた材料の形や色、場所の持ちようから<br>思いつき、くふうして活動する | ※同じもの、たくさん  | ☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。<br>身のまわりにある身近材料を使い、美しさやおもしろさを表現するのにふさわしい環境や場所と出会い、その場所で思いついた活動をする内容である。<br>学校にある同じ形をした、たくさんあるものを見つけ、あらゆる環境とかかわりながら、表現していくことを通して、これまでの経験を総合的に生かしながら活動を展開していく。 | 関: 同じものがたくさんあることのおもしろさを感じ取り、その材料を効果的に使いながら自分が納得できるように表す。<br>発: 同じものがたくさんあることから表したいことを思いつく。<br>創: 場所とかかわりながら並べる、組み合わせる方法を工夫する。<br>鑑: 同じもののおもしろさを味わったり、自分や友達の表現の違いやよさを味わったりする。<br>[共] 身近な材料を使い、場所や環境に合った活動することを通して、たくさんの同じ材料の形や色、また、場所の造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分でしたい活動のイメージをもつ。 | 教師: 学校にある様々な同じ形をしたもの(例: 画板、机、いす、ぞうきん、ほうき、各教科で使われる備品など) | 加工材料にかかわる造形遊びの系列である。<br>低学年ではビニル袋や、大きな紙や布、紙コップなどの操作しやすい材料で活動してきた。<br>ここでは、大量にある同じ形をしたものにかかわって、構成するという高度な内容になっている。<br>同じ形のものや活動する場所の特徴にかかわって、美しさのある構成をしたり、場所を生かした特徴ある構成をしたり、と高学年らしい活動を指導する。                                  |
|          | 2時間<br>教科書17ページ | 表現(1)<br>遊 |  風の動きをとらえる場所や材料を考えて、<br>くふうして活動する      | ※流れる風をつかまえて | ☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。<br>風のもつ魅力を十分に感じ、それを生かし、あらゆる環境とかかわりながら、様々な材料を使って活動していく内容である。<br>風の動きを見つけることができるように、様々な材料を選ぶことなど、これまでの経験を総合的に生かしながら活動を展開していく。                                  | 関: 風のいろいろな特徴を感じ取り、目に見えない風の姿を表すために、材料を効果的に使いながら自分が納得できるように表す。<br>発: 風をどのように表すか思いつき、材料を選び、しかけのつくり方を考えるなどの思いをめぐらせる。<br>創: 材料を効果的に使い、風の姿を表す工夫をする。<br>鑑: 風のもつおもしろさを感じたり、自分や友達の表現の違いやよさを味わったりする。<br>[共] 身近な材料を使い、その場所や環境に合った活動を通して、見えない風を感じ取れる形や色、動きなどの造形的な特徴をとらえる活動のイメージをもつ。 | 教師: 布、各種紙類、支えとなる棒、各種接着剤、テープ類、身近材料<br>児童: はさみ、セロハンテープ   | ここでは、造形的な操作にかかわる系列の造形遊びの題材である。<br>高学年らしく光や風などの自然の環境を取り入れる活動である。目に見えないものを工夫して可視化するという内容は高度である。<br>想像したものを表す題材は低・中学年と経験しているが、目に見えない自然現象を目に見えるようにする、というのはこれが初めての経験になる。想像力と発想力が要求される題材である。<br>こうした力の蓄積が、中学校美術における表現や鑑賞の力となっていく。 |

|          |                       |            |   |                |  |  |  |   |
|----------|-----------------------|------------|---|----------------|--|--|--|---|
| 2学期・20時間 | 2時間<br>教科書 20・21ページ   | 鑑賞         | <br>絵をよく見て、見つけたり、感じたりしたことを話し合う         | 見つけたことを話してみよう  | ☆心を開いて友達のことを知り、材料体験をする題材である。<br>ここでは、絵をよく見て、絵の中から見つけたことや感じたこと、想像したことなどを友達と話し合うことで、自分や友達の見方や考え方、発想のおもしろさやたのしさに気づく内容である。   | 関：対象に興味や関心をもって働きかけ、絵の中から見つけた人やものについて、友達と話し合うことをたのしむ。<br>発：自分の経験と重ね合わせたり、表現の特徴をとらえたりしながら、自分らしい見方や感じ方で、絵の中の人やものなどについて考える。<br>鑑：自分や友達の見方や考え方、発想のおもしろさやたのしさに気づく。<br>【共】 自他の感じ方の違いを通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分なりのイメージをもつ。          | 教師：関係する資料など  | 親しみのある美術作品を鑑賞する題材である。一つ一つの作品を、いろいろな観点からじっくり見て、見つけたり、感じたりしたことを話し合う題材である。<br>浮世絵や空想的な絵画、具体物が何も描かれていない抽象絵画などを見る経験をする中で、中学校美術の鑑賞へとつながっていく。  |
|          | 4～6時間<br>教科書 22・23ページ | 表現(2)<br>絵 | <br>場所のおもしろさや特ちょうから想像したことをくふうしてかく      | ※「そのば」くん登場     | ☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。<br>ここでは、学校の中の様々な場所から「顔」に見えるところを探し、デジタルカメラで撮影し、「顔」を見つけた「その場」の様子、「顔」の形や色、見つけた「顔(もの)」の使い道などから思いを広げ、「そのば」くんは、どんなところで何をするか、思いついたことを絵に表す内容である。<br>「顔」を見つけた場所がどのような場所で、「顔」に見立てたものがどんな役割を果たしているかなど、着想するきっかけをつくる。撮影した画像を印刷し、描画の材料とする。 | 関：様々な場所の特徴に興味をもち、目線や向きを変えて「顔」を探してたのしむ。<br>発：見つけた場所のおもしろさや特徴を味わい、表したいことを見つめる。<br>創：「顔」の形や色、「場所」の様子から、思いついた場面の表し方や動きを工夫する。<br>鑑：感じたことと思いついたことの違いやよさを味わい、伝え合う。<br>【共】 学校内の「顔見つけ」から想像して、その形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいもののイメージをもつ。 | 教師：デジタルカメラ、プリンター、描画用紙(色画用紙、ボール紙など)<br>児童：はさみ、のり、絵の具、コンテなど            | 写真を使った顔見つけの見立てと、さらにその写真を使って、表現に結びつけるという高度な内容である。<br>ツールとしてのデジタルカメラの使い方、及びその画像の生かし方は、中学校美術の映像表現につながっていく。   |
|          | 4～6時間<br>教科書 24・25ページ | 表現(2)<br>絵 | <br>身のまわりのものを液体ねんどで固めたてこぼし画面にくふうしてかく | ※てこぼし広場に絵の具が走る | ☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。<br>ここでは、身近な液体粘土で固めて凹凸の画面をつくり、凹凸の特徴やおもしろさを感じ、思いついたことを絵の具で表す内容である。<br>段ボールや板などの上に液体粘土で固めたものを集め、材料の特徴を味わいながら、組み合わせ方を工夫する。液体粘土で固める活動は、下地づくりの作業ではなく、固まった凹凸の形の特徴やおもしろさから思いを広げていくために取り組む。   | 関：身のまわりにある材料を白く固めるおもしろさに興味をもち、凹凸画面をたのしむ。<br>発：凹凸やざらつき、画面の形や大きさなどから思いを広げる。<br>創：画面の特徴を生かす材料や技法を選んで工夫する。<br>鑑：画面の形を生かした発想や表し方を感じ、認め合う。<br>【共】 液体粘土で固めた凹凸画面から想像して、その形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいもののイメージをもつ。                      | 教師：板材または段ボールなどの支持体、凹凸をつくる材料、液体粘土、刷毛、接着剤など<br>児童：はさみ、接着剤、絵の具、コンテ、身近な材 | コラージュによる表現の系列の題材である。低学年では、「はるはるおはながみのえ」、中学年では、「ようこそキラキラのせかいへ」「ふわふわさんのかざり」の経験がある。<br>この題材は、色も触覚感も違うものを板や段ボール上にコラージュし、さらにその上から液体粘土を塗り固め、白い半立体的な画用紙状にしてから着色するという、技能的にも発想的にも高度な題材である。材料、技法ともに上級学年になるにしたがって抵抗感のある、課題解決型の要素が強い題材となっている。 |



| 学期       | 時間                    | 指導<br>要領       | めあて<br>と重点<br>活動  | 題材<br>名       | 学習の内容   | 評価の観点   | 主な材料・用具  | 小・中一貫の視点  |
|----------|-----------------------|----------------|---|---------------|---|---|--|---|
| 2学期・20時間 | 4～6時間<br>教科書 26・27ページ | 表現<br>(2)<br>工 | <br>かんたんしくみを生かして、<br>動くおもちゃをつくる        | くるくる回して       | ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。<br>ここでは、針金や空き箱を使った動く仕組みについて知り、発想を広げ、動きと材料を効果的に組み合わせて表現していく内容である。空き箱は収集した中から選んだり、自分の考えに合うものを探したりしながら決める。針金を曲げる位置やゆれ棒の関係をよく考え、動かしながら発想をふくらませ、自分なりの主題を見つけ、色紙などで工夫をする。友達と交流しながら作品を動かし、おもしろさ、工夫などを感じ取らせたい。 | 関：動き方や動くしくみによるたのしさやおもしろさなどに興味をもつ。<br>発：動き方から発想を広げ、自分なりの主題を見つけたり、工夫を考えたりする。<br>創：動くしくみを理解し、自分の思いに合う材料を選び、表現の工夫をする。<br>鑑：自分や友達の表現のよさやおもしろさ、工夫を感じ取る。<br>【共】 動くしくみから、思いついた形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえて、自分のつくりたいおもちゃのイメージをもつ。  | 教師：色画用紙、空き箱、ストロー、針金、竹ひご、セロハンテープ、両面粘着テープ、ペンチ、カッターナイフ、カッターマット、カラーペン<br>児童：空き箱、はさみ、接着剤、ホチキス | 仕組みを利用した工作の系列で、高学年の材料、針金で仕組みをつくる題材である。<br>ペンチを使って針金で仕組みをつくったり、動く仕組みを生かした飾りのおもしろさをつくったりするなど、発想や技法は高学年なりの高度な内容である。<br>針金や工具の扱いなどを体験することが、中学校技術科にもつながっていく。                         |
|          | 2時間<br>教科書 28・29ページ   | 表現<br>(1)<br>遊 | <br>自然の場所やかんきょう、材料の特ちょうを考えながら、たのしく活動する | ※自然の中で感じたことを… | ☆心を開いて友達のことを知り、材料体験をする題材である。<br>自然材料のもつ魅力を生かし、形や色を感じながら自然環境とかかわって表現していく内容である。これまでの経験を総合的に生かしながら活動を展開していく。   | 関：自然環境のいろいろな特徴を感じ取り、自然材料の効果的に使いながら、自分が納得できるように表す。<br>発：自然材料を生かしてどのように風景を変えていくか思いつき、自然材料の組み合わせや表し方などに思いをめぐらせる。<br>創：自然材料を効果的に使い、風景を変える工夫をする。<br>鑑：自然環境そのもののよさや、自分と友達の表現の違い、よさを味わう<br>【共】 自然材料を使い、その場所や環境に合った活動を試行しながら、形や色などの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分でしたい活動のイメージをもつ。 | 教師：木の葉や実、草や枝、つる、石などの自然材料、麻縄やシュロ縄などの結束材料  | 自然材料から発想する造形遊びの系列である。<br>低学年から造形遊びとして自然材料にかかわってきているが、少しだけ手を加えて材料や、自然環境の特徴を生かして景色を変えてみる、という点が高学年の要素になっている。<br>こういった自然に全身でかかわり合う活動の積み重ねが、自然材料の形や色に触れ、その個々の特徴に気づくという観察の基礎の力となってくる。 |

|          |                     |              |   |                  |  |  |  |  |
|----------|---------------------|--------------|---|------------------|--|--|--|--|
| 2学期・20時間 | 2時間<br>教科書 29 ページ   | 表現(2)<br>[絵] |  葉の形や色を味わいながら、絵にかくことをたのしむ        | ※葉っぱの美、発見        | ☆心を開いて、友達のことを知り、材料体験をする題材である。<br>ここでは、身近にある草木の葉を観察し、感じたことや見つけたことを、自分の好きな方法で絵に表す内容である。<br>何気なく見ている葉っぱも、改めてじっくりと見てみるといろいろな発見がある。種類ごとに異なる独特の形状や虫食いのあと、季節による色の变化など、自然物ならではの豊かな味わいがある。一人一人の視点や感じ方を大切にしながら、色使いやまとめ方を工夫して表す子どもたちの姿を期待したい。 | 関: 葉っぱの形や色の美しさ、おもしろさに関心をもつ。<br>発: 自分の見方や感じ方を大切にしながら、画面の構成やまとめ方を工夫する。<br>創: 表したいものの感じがよく表れるように、絵の具や他の描画材料の扱いを工夫する。<br>鑑: 見方や感じ方、表し方のよさを感じ取りながら、お互いの作品を見合う。<br>【共】 1枚の葉を見たり、それらを自由に組み合わせたりしながら、その形や色の特徴をとらえ、これをもとに表したい自分のイメージをもつ。        | 教師: 画用紙、色画用紙、その他必要に応じてローラー、透明プラスチック板など<br>児童: 鉛筆、色鉛筆、カラーペン、水彩用具一式など                          | 自然の材料を観察し、自分で味わった葉っぱを自分が美しいと思う方法で絵に表す題材である。<br>観察や経験にかかわる題材の系列であり、中学年の「木々を見つめて」からつながる題材である。<br>ここでは葉っぱを主題にしながら、その形や色を、自分が美しいと感じたように表し方も自分で選んで絵に表すという高学年ならではの内容である。 |
|          | 2時間<br>教科書 30 ページ   | 表現(2)<br>[絵] |  「自分マーク」をもとに、ものを重ねる利用してかく        | 重なる、だれが前、どっちが後ろ！ | ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。<br>まず複数の自分マークを重ねてかいてみる。形を重ねてかくと、ものの前後の位置ができることに気づかせる。いわゆる、重なり遠近法を確かめたり、それらを活用したりした表現をたのしむ内容である。<br>複数の自分マークを組み合わせ、この重なり遠近法を活用してかくと、たのしい表現になる。  | 関: ものを重ねてかくと、ものの前後の位置を表現できることに興味や関心をもつ。<br>発: ものを重ねて表現すると、ものの前後の位置を表現できることに気づき、前後の関係を生かした表現を思いつく。<br>創: 複数の「自分マーク」を重ね、前後の関係を生かした表現ができる。<br>鑑: 重なり遠近法を生かした表現の特徴やよさ、おもしろさに気づく。<br>【共】 自分マークの形や色、奥行きなどの造形的な特徴を重ねる遠近法でとらえ、造形的なイメージをふくらませる。 | 教師: 画用紙(16 切り)<br>児童: 鉛筆、色鉛筆、カラーフェルトペン   | 自分マークをもとに、重なりや前後の関係を、奥行きを表す題材である。この発想が、中学校美術の遠近感や奥行き、透視図法へとつながっていく。  |
|          | 4～6時間<br>教科書 31 ページ | 表現(2)<br>[立] |  アルミはりかねなどを使って、しゅん間の動きをとらえてつくる | そのときを形に          | ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。<br>ここでは、見たり想像したりしたものをつくり出す場面のワンシーンを切り取るつもりで、アルミ針金やアルミ缶を使って立体に表す内容である。<br>アルミ針金がつくる自由な曲線や塊にした時の重量感などを十分に生かすようにする。生き物の動きをいろいろに変化させ、工夫し、動きが感じられる場面をつくる。                                       | 関: アルミ針金の立体をつくり出す可能性をたのしみながら、つくることに関心をもつ。<br>発: 生き生きとした動きや実体感のある情景などを想像力豊かに表す。<br>創: アルミ針金の性質を十分に活用し、いろいろなつくり方を試しながら工夫して立体に表す。<br>鑑: 自分や友達の作品のよさを味わう。<br>【共】 アルミ針金を操作する活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分のつくりたい立体のイメージをもつ。        | 教師: 各種アルミ針金、土台にする木片や板、金網、ボルト・ナットなどの金属類、ペンチ、金切りばさみ、かなづち、きり、くぎ、接着剤<br>児童: アルミ缶、アルミホイル、金属金具類、軍手 | 高学年で必ず経験させることになっている針金を主材料として使った題材である。<br>線から形をつくり上げたり、線を面として表したりすること、また何かの瞬間の動きを表すことは高度な表現であり、中学校美術の彫刻題材にもつながっていく。   |

| 学期       | 時間                   | 指導要領             | めあてと重点活動  | 題材名          | 学習の内容   | 評価の観点  | 主な材料・用具   | 小・中一貫の視点   |
|----------|----------------------|------------------|---|--------------|---|--|---|--|
| 3学期・14時間 | 6時間<br>教科書 32・33 ページ | 表現 (2)<br>[絵(版)] | <br>色が重なっていくことから思いついたことをくふうして、木はんに表す | 色を重ねて、ゆめを広げて | ☆試したり見つけたりしながら造形的な表現を追求する題材である。<br>ここでは、彫りと刷りの繰り返しから想像を広げ、表したいことを「彫り進み版画」で表す内容である。<br>何枚も刷ることができる版のよさを生かし、色を変えて刷り重ねていくなどしながら、イメージを広げ、形や色のよさを感じながら工夫して表現する。  | 関：彫りと刷りのたのしさを味わい、新しい版表現の方法に関心をもって取り組む。<br>発：彫りと刷りの繰り返しから想像を広げ、画面を構成する。<br>創：表したい感じが効果的に表現できるように彫りや刷りを工夫しながら表す。<br>鑑：彫った感じや刷り上がった感じを味わったり、友達の表現のよさを感じたりする。<br>【共】 彫り進み木版の製作を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の表したいイメージをもつ。                     | 教師：シナベニヤ、ローラー、練り版、版画インク、ばれん、版画用紙、ドローヤー<br>児童：彫刻刀、古布、新聞紙、鉛筆、油性ペン | 木版画の系統では、中学年の「ほると出てくるふしぎな花」からのつながりであり、彫り進む技法や、刷りを重ねる技法がより高度になっている。<br>木版画としては2題材目であり、この題材で彫刻刀の安全な使い方や刷りの技法などを習得したい。<br>中学校美術の版表現につながっていく。  |
|          | 4～6時間<br>教科書 34 ページ  | 表現 (2)<br>[工]    | <br>身まわりの材料で、ビー玉がたのしく転がるおもちゃをつくる     | ※ビー玉、大ぼうけん   | ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。<br>ここでは、身のまわりの材料を使って、ビー玉が転がる動きや仕組みを工夫してたのしむ内容である。<br>材料を生かした組み合わせ方や仕組みなどを遊びながら試し、造形的な工夫のたのしさを味わう。<br>ビー玉が転がる速さや向き、意外な動きがつながるしくみ、見た目のおもしろさなどを考えたり、道や柱の形や色などに合わせて材料を工夫したりする。<br>牛乳パックをつなぎ合わせたり、自然の材料を持ち寄って大きなものをつくって遊んだりすることもできる。 | 関：ビー玉がいろいろな動きをする形やしくみに関心をもってたのしむ。<br>発：材料の組み合わせを試したり、動きを確かめたりしながらおもしろいしくみを考える。<br>創：材料のよさや違いを味わいながら、意図に合った形や丈夫さを工夫する。<br>鑑：互いに遊びながら新しい表し方やアイデアのおもしろさを味わい、伝え合う。<br>【共】 ビー玉を使って、遊ぶものをつくる活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分のつくりたいおもちゃのイメージをもつ。 | 教師：土台になる板材（または段ボール、牛乳パックなど）、帯紙<br>児童：はさみ、接着剤、絵の具、ホチキス、身辺材       | ビー玉の動きを生かしたゲームをつくる題材である。<br>ビー玉が転がるだけではなく、たのしいしかけや意外なしかけ、見て美しい形など、高学年の児童らしい工夫が生きる題材である。<br>土台をつくりながら、ビー玉の動きを確かめたり、友達どうしてアイデアを交換し合ったりするなどの活動が自然にできていく。<br>しくみを生かす形の工夫などは、中学校の美術や技術の入り口となっていく。 |

|          |                        |             |  |               |   |  |  |  |
|----------|------------------------|-------------|--|---------------|---|--|--|--|
| 3学期・14時間 | 4～6時間<br>教科書 35 ページ    | 表現 (2)<br>Ⅰ | <br>紙ひもやテープなどの線材を<br>あんだり、組んだりしてつくる | ※線を集めて        | ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う題材である。<br>ここでは、間伐材のテープや荷造り用バンドなど、線状の材料を編んだり組んだりして、飾るものをつくる内容である。<br>テープ状の材料は編んだり、組んだりするとおもしろい形になったり、美しさが生まれたりすることに気づき、手を動かしてつくるたのしさを味わう。<br>花や蝶などをイメージした具体的な形もあれば、線の形のおもしろさを構成したもの、かごのように用途のあるものなど、多様な作品が生まれる可能性がある。 | 関：編んだり組んだりしてできる形に関心を持ち、意欲的に表す。<br>発：つくりながらイメージを広げ、表したい形を構成する。<br>創：思いついたことから想像を広げ、材料の特徴を生かして、編んだり組んだりするつくり方を選んだり、いろいろ試して工夫したりする。<br>鑑：作品を飾ったり、使ったりして、自分や友達の発想や表し方のよさを見つけ、認め合う。<br>【共】 線状の材料の形や色、組み合わせなどを試しながら、それらがつくり出す形の特徴をとらえ、自分の表したいイメージをもつ。      | 教師：張りのあるひもやテープ状のもの（紙ひも、紙バンド、間伐材テープ、リボン、水引、荷造り用バンドなど）<br>児童：はさみ、接着剤、ホチキス、身辺材（飾りなどに補助的に使うもの） | 紙ひもやテープなどの線材を材料とした題材である。線材を利用した表現の系列としては、低学年で紙テープを使った飾るものをつくる工作の系列である。<br>ここでは、たとえば線材を水にぬらして柔らかくしてから編むなど、手間をかけたり、抵抗感のある線材を使ったり、高学年にふさわしい高度な内容になっている。<br>この材料体験が中学校の美術における様々な線材を使った表現の基礎となる。      |
|          | 4～6時間<br>教科書 36・37 ページ | 表現 (2)<br>Ⅰ | <br>箱を使って、気持ちが伝わるように<br>つくったのしむ     | 伝えたい気持ちを箱につめて | ☆心を開いて、友達のことを知り、材料体験をする題材である。<br>ここでは、見てほしい「私の世界」がうまく伝わるように、箱の立体的な構造を生かしたメッセージボックスづくりをたのしむ内容である。<br>既製の箱では伝えたいものができない場合は箱づくりから行うなど、箱の開く仕組みをうまく生かしながら、工夫して表現する。  | 関：箱の機能と伝えたいメッセージを効果的に組み合わせて、たのしく表現する。<br>発：箱を開けたときの見る人へのアピール性などを考え、効果的な表現方法を構想する。<br>創：箱を開ける仕組みや伝えたいことを効果的に表現するための材料の使い方などを工夫して表す。<br>鑑：作品をどこに置るか考えたり、互いに見合ったりして、そのよさを味わう。<br>【共】 箱を使って自分の世界をつくる活動を通して、形や色、動きや奥行きなどの造形的な特徴をとらえ、これをもとに自分の伝えたいイメージをもつ。 | 教師・児童：工作用紙（方眼の入った厚紙）、展開図、箱（見本）、紙類、ひも類、紙粘土、モール、はさみ、描画材料、接着剤、カッターナイフ、サインペン、身辺材料など            | 総合的なかわり合いを内容とする題材で、箱を使ってコミュニケーションを図る内容である。<br>伝えるという発想では、低学年で「えてがみ」、中学年で「カード」などを体験しているがその系列の題材である。<br>ここでは、箱の形をそのまま生かしながら、箱の外と中に伝えたいメッセージを展開させるという高度な内容になっている。<br>形や色による伝達は、中学校美術のデザインへとつながっていく。 |



| 頁               | 指導<br>要領                | 題材名             | 学習の内容   | 主な材料・用具  |
|-----------------|-------------------------|-----------------|---|--|
| 教科書 2 ～ 4 ページ   | 鑑賞                      | 小さな美術館          | 巻頭の「小さな美術館」では、各学年の子どもたちの興味・関心にあわせた作品を掲載するだけでなく、それぞれの作品について鑑賞の観点のうちの一つを吹き出しで入れた。また、1ページ大で扱う作家作品を必ず取り上げ、教室での鑑賞資料として十分に対応できるようにした。<br>ここでは、「不思議な世界」というサブタイトルで、想像した世界を表した作品を取り上げている。  |  |
| 教科書 6 ～ 7 ページ   | 鑑賞                      | ゆめをかたちに         | 子どもたちがその学年で出会う材料や表現方法を使っている作家の作品と子どもたちへのメッセージである。<br>ここでは、写真家の川内倫子さんに登場していただき、「一瞬に向かい合う」ことで何かを発見することのたのしさを子どもたちに伝えてもらった。  |  |
| 教科書 18 ・ 19 ページ | 表現<br>(2)<br>[工]        | ひらめきコーナー        | ☆形や色、方法や材料について知り、造形的なものの見方や考え方を養う活動である。<br>ここでは、厚紙の造形紙を使って簡単にできる紙工作での模様づくりや動くおもちゃを提案している。   | 教師：色画用紙、色厚紙、段ボール、ミラーシート、アルミ針金、竹ひご、ホチキス、化学接着剤など<br>児童：色紙、はさみ、カッターナイフ、ストロー、接着剤など |
| 教科書 38 ～ 40 ページ | 鑑賞                      | みんなのギャラリー       | 暮らしを豊かでたのしいものにするために造形が果たす役割は大きい。そのために、子どもたちに関心がもてそうな行事や祭り、イベントなどを紹介している。<br>ここでは、「みんなでいっしょに」「伝統の技を学ぶ」「教室をとびだして」「日本の祭り」の四つのテーマでくくっている。   |  |
| 教科書 41 ～ 43 ページ | 表現<br>(2)<br>[絵]<br>[工] | パレットコーナー<br>道具箱 | 道具は、造形活動においては、材料とともになくてはならないものである。子どもたちも自らの思いを実現させるために、道具の正しく合理的な使い方を知ることが大切なことである。そのための手引きのページである。ここでは、ペンチと針金の使い方について掲載した。工作をするときに活躍する道具であるが、いろいろな学習や活動の場面で使われるので、繰り返し活用し、自分の手のように扱えるようにしたい。また、「気をつけて！」のコーナーを設け、安全面にも配慮した。<br>「ざいりょうはたからもの」では、材料を集める一つの視点として、「機械やおもちゃなどの部品」を提案している。<br>また、「パレットコーナー」では、混色のしかたや、筆、パレット、筆洗の使い方の基礎・基本を「もう一度チェックしてみよう」などを掲載している。 |  |

|        |    |                                 |  |  |
|--------|----|---------------------------------|--|--|
| 教科書裏表紙 | 鑑賞 | つな<br>がる<br>造形<br>学校<br>や家<br>で | <p>「つながる造形」をテーマに、各学年に応じて、情景写真や授業写真などを掲載し、図画工作科からつながっていく、あるいは、広がっていく内容を掲載している。ここでは、「学校や家で」のサブタイトルで、図工で学んだことを生活に生かすことを示している。</p> |  |
|--------|----|---------------------------------|--|--|